

塾講師わいせつ 実刑

岐阜地裁判決 立場を悪用「卑劣」

岐阜県大垣市の学習塾で教える女子2人にわいせつな行為をしたとして、不同意わいせつの罪に問われた同市桑田町、無職河村成泰被告(31)に対し、岐阜地裁は28日、拘禁刑1年10月(求刑拘禁刑3年)を言い渡した。

判決理由で田中香里裁判官は、講師の立場を悪用したと指摘した。過去に女性から受けたトラウマ(心的外傷)から成人女性に対する恐怖心が生まれた背景を酌むべきだとした弁護側の主張に対し、「性の知識に乏しく、逆らわないであろう低年齢の被害者を狙って犯行をする」とは何ら正当化されない」と退け、実刑は免れないとした。

判決によると、7月3日、同市の学習塾「河村塾」で、教える女子2人が13歳未満と知りながら、着衣に手を差し入れるなどして、下腹部などを触った。

「大人の女性 苦手意識」 小児性愛障害と診断

「何てことをしてくれたのか。子どもの人生に影響があるのではないかと危惧している」。公判では被害者の保護者の陳述書が読み上げられ、信頼していた塾講師に裏切られた怒りをあらわにした。

公判では被告が子どもへの性的加害を繰り返す「小河村被告は子ども」のところに

てくる塾の子どもたちからは否定的な言葉をかけられることはなかった。被告人質問では「大人の女性に苦手意識があり、小さい子から自分を否定しないと思いついてしまった」と話した。

NPO「性障害専門医療センター」の福井裕輝代表理事(精神科医)によると、小児性愛障害には先天的と後天的なものがある。被告が語った背景事情について、「後天的な障害の要因の一部だが、短絡的に因果関係を求めないほうがいい」と指摘する。

自分の行為を受け入れてくれるなどの「認知のゆがみ」は、パワハラや長時間労働、自己肯定感の低さなど複数の要因が作用するとして、「認知行動療法を通じて、どんな問題が影響したのかを探ることで治療できる」と話す。

河村被告は最終陳述で「被害者と家族に心の傷をつけたことを心よりおわびする。薬物治療と更生プログラムを誓つ」と述べた。(石井豪、久我玲)